

口腔機能管理は、認知症の先制的予防介入に寄与するのか



木本克彦
補綴科 クラウンブリッジ診療部門 教授

我が国では、世界に類を見ない速度で高齢化が進行しており、それに伴い認知症患者数も増加の一途をたどっている。現在、軽度認知障害（MCI）を含めた認知症患者数は約1,000万人に達すると推計されており、認知症の治療法および予防法の確立は、日本のみならず世界的にも喫緊の課題となっている。このような背景のもと、Livingstonらはライフコースの視点から、低学歴、中年期の難聴、肥満、高血圧、後期うつ、喫煙、運動不足、糖尿病、社会的孤立などの修正可能な危険因子への介入により、認知症発症の最大約40%が予防可能であると報告している。すなわち、治療のみならず、日常生活における予防の重要性が強調されている。認知症予防の手段としては、適度な運動や食生活の改善など生活習慣の見直しが広く推奨されているが、近年では口腔機能もその重要な要素として注目されている。本講演では、これまでに報告されてきた口腔機能、特に咀嚼と認知症・認知機能との関連について、文献的知見を整理し概説する。さらに、本学で経験した症例を提示し、医科歯科連携における課題を明らかにするとともに、口腔機能管理が先制的予防介入として有する可能性について考察する。

【略歴】

- 1988年3月 神奈川歯科大学卒業
- 1988年6月 神奈川歯科大学 補綴学教室 第3講座助手
- 2000年9月～2002年3月 カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）歯学部補綴科 客員研究員
- 2003年11月1日 神奈川歯科大学 顎口腔機能修復学講座 歯科補綴学分野 講師
- 2007年4月1日 神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座 クラウン・ブリッジ補綴学分野 教授
- 2013年4月1日 神奈川歯科大学大学院 咀嚼機能制御補綴学講座 教授
- 2015年10月1日 神奈川歯科大学大学院 口腔機能修復学講座 教授
- 2014年4月1日 神奈川歯科大学大学院歯学研究科 副研究科長
- 2015年4月1日 神奈川歯科大学附属病院 副院長
- 2021年4月1日 神奈川歯科大学歯科補綴学講座 クラウンブリッジ補綴学分野 教授（現在に至る）
- 2023年2月1日 神奈川歯科大学附属横浜クリニック 院長
- 2026年4月1日 神奈川歯科大学附属病院 病院長（現在に至る）

*主な所属学会等

- 公益社団法人 日本補綴歯科学会
- 公益社団法人 日本口腔インプラント学会
- 一般社団法人 日本デジタル歯科学会